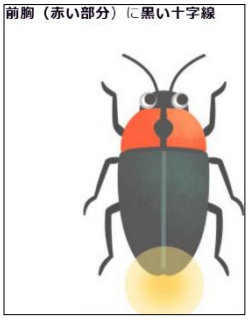
●ホテルオークラで竹文化振興協会の会議で小林慧人さんがコーディネーターを務めました。6 月 12 日

「竹の情報発表会」が開かれ岩松文代(北九州市立大学教授)氏から小倉では竹文化が生かされ小倉祇園祭には竹が多く取り込まれている。また紫川ではお茶会が取り組まれ竹が生かされています。大学では夜の授業を行い実践行動がとりいれている。また三木崇司（三木竹材店代表・京都市南区）氏は、今の時代は物を買う時代となっている、物は作るものと強調されたことが心に残りました。続いて新谷由貴代（京都伝統工芸大学校校長）さんからは徒弟制度では後継者を育成できなかったのでこの学校が創設されました。学校では新人教員の研修を受け持ってきたが、ここでの箸つくりなどの体験が体に残っていると現地現場での行動の大切さが語られました。最後に京都いけばな協会会長の松本司氏から竹を使った華道の各種工夫が映像で発表されました。

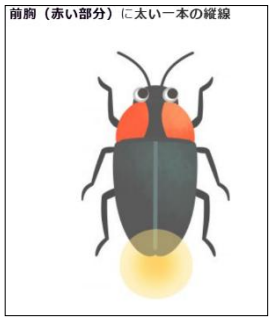
●大変残念でした　蛍の夕べと里山音楽会　6 月 14 日が梅雨の雨で中止となりました。

梅雨の季節の大きなイベントとして取り組んできました。これまでは太鼓やハーモニカ、大正琴、尺八の演奏を楽しんできましたが今回のように前日は良い天気だったのに翌日は激しく降り続く天気になるとは予想もできない事でした。参加募集は 50 人でしたが 5 日もしないうちに 50 人を突破してしまいました。水曜日の事務局会議ではスマートフォンを眺めて雨天予想になっている相当激しい雲行きだから、どの時間で実行判断するのかと喧々諤々の相談になりました。特に今回は昆虫観察会に桜谷先生が連泊をして森の宝石といわれているミドリシジミの観察を行うと予定して観察地の同志社大学用地のハンノキの群生地での観察使用の許可を取ってきました。そのほかもう一つの群生地も観察候補地として下見を進めてくるなどを行って昆虫部会の皆さんがしっかり準備をされていました。また 16 時からのプログラムでも例年以上に趣向を凝らしていただきました。特に 3 年連続の出演を快諾頂いたキジムーバンドの皆さんはどのようにして楽しい時間にしてゆこうかと苦心を重ねていただきました。里山農園クラブの有志数人はイノシシやアライグマなどからの獣害防止のためにネット張り作業の下準備として周囲の通路の草刈りをしていただき夜の通行の安全対策を整えるなどの準備を行いました。これまでにない充実した準備ができました。当日を迎えるところまで準備ができましたが雨天となって中止せざるを得ませんでした。多くの皆さんから参加希望をいただきながら本当に残念なことになってしまいました。

折角現地に来たのだから桜谷先生は雨が土砂降りの中、近隣のホタルが生息していそうな川沿いを出かけられました。同行された方が発見されたのがゲンジボタルでした。普賢寺地域では多くの所で少し小さいヘイケ蛍が殆どでしたが、大きいゲンジホタルが見つかりました。強い光を発光するのと大型がゲンジホタルです。



ゲンジボタル



ヘイケボタル

●ハンノキの周囲で飛翔する森の宝石と呼ばれる「ミドリシジミ」の撮影に成功

幾度もの「ホタルの夕べと里山音楽会」で挑戦してきましたが写真撮影が出来ずにいました。昨日は激しい雨続きだったので今日の晴れ間に植物捜しに出会ったのではないでしょか。夕方に飛翔するといわれていますが 13 時ごろに撮影できました。

（撮影者＝中沢洋斗さん(中学生)が撮影に成功されました。）

●ササユリ開花確認　6 月 14 日　（昨年は 6 月 2 日）

昨年の異常な高温が続きましたので今年の確認は大変遅れました。それでも 2 輪開花してくれました。うれしいことです。甲虫については数日前にトラップを仕掛けていただきましたら成果が現れました。トラップにはノコギリクワガタが 7 匹も入っておりました。昨年はビックリするほど沢山捕獲(週刊ニュース 1041 号に写真掲載)しましたのに、今年は早くも動き出しているのですね。

農園部会だより

●6 月 14 日（土）ハンマーモアの修理の対応をしてくださいました。
参加者：太田、森島
14 日(土)は早朝から降り続いていた雨のために、農園作業はお休みとなりました。10 日(火)も雨のために作業は中止としましたので、野菜が成長してくれているのか？獣害にはあっていないか？？と心配事は増えるばかりでした。しかし、12 日(木)は伊藤さんがトマトの整枝と脇芽掻き、ナスの整枝と追肥をしてくださり、その他の野菜についても成長具合を農園部会メンバーに報告してくれましたので、少し気持ちを落ち着けることができました。伊藤さん、ありがとうございました。また、7 日(土)にハンマーモアがいつもと違う振動や異音がしているのは「草刈り部分」と原因を突き止めてくれていたので、太田さんが交換部品を取り寄せて対応をしてくださり、14 日に森島さんと試運転をして元気な状態に戻してくれました。太田さん、ありがとうございました。今回は 2 名のお名前を記載させていただきましたが、火曜日・土曜日の活動日以外に農園のことを気に掛けて行ってくださっている方々がいるとも聞いています。皆さまのおかげで農園環境が保たれています。本当にありがとうございます。

ハンマーモアの原因追及(7 日)

刈り取り部分の対応作業(14 日)

●里山農園では 4 月に植えたニンニク 40 株を収穫しました。黒ニンニクを作りたいので、不要な炊飯器がございましたら提供いただけないでしょうか。2 台ほど用意できればと考えております。連絡いただければ受取りに伺いますのでよろしくお願いいたします。

●光田重幸先生がカラグワを普賢寺川で再発見をされました。

里山の会が発足して間もないころ、故村田源先生が木津川で養蚕の飼料として使用されていたカラグワを発見されたと発表されました。続いて普賢寺でも見つけられたとお話を伺いました。その当時の標本写真が見つからなくなったと光田重幸先生にお話をすると早速普賢寺川沿いで「カラグワ」を採取していただきました。私は古事記での奴理能美(ヌリノミ)の記述や村田先生の養蚕に用いられたと推察するカラグワの発見、そして多々羅という地名などから山城

毎　日　新
2025年(令和7年)6月14日(土

■皇后さまが繭の収穫

皇后雅子さまは13日、皇居の紅葉山御養蚕所で、蚕の繭を収穫する「初繭掻（はつまゆか）き」に臨まれた＝写真・宮内庁提供。純国産種の蚕、小石丸が作った繭を「蔟（まぶし）」と呼ばれる器具から丁寧に摘み取った。白い繭を手に雅子さまは「今年も良い繭ができましたね」と担当職員に話したという。皇室の養蚕は明治以降、歴代皇后が受け継いでいる。

のロマンとして高松塚古墳の壁画に描かれている美人画の人物が付けている衣服の布は京田辺市多々羅で生産されたものではないかと考えられています。現在の皇室の皇后様が皇居で養蚕をされているとお聞きしました。もし発見された古代のカラグワを使って繭から絹糸を造り出して布を織り揚げられる事が出来れば長年のロマンが実現できるかもしれません。できあがれば史実に基づいたものができるのではないでしょうか。

古事記には、仁徳天皇の磐之媛命(イワノヒメノミコト)が多々羅の奴理能美(ヌリノミ)を訪れ、「一度は這う虫になり、一度は繭になり、一度は飛ぶ鳥になり、三色に変化する不思議な虫がいます。皇后は、この虫を御覧になりにお越しになったのに相違ありません。決して他意あってのことではありません」と申し述べた。このように奏上すると、天皇は、「それでは、私も不思議だと思うから、見に行こうと思う」と言って、皇居から川をさかのぼって奴理能美の家に入った。そのとき、奴理能美は自分が飼っている三色に変わる虫を、皇后に献上していた。」とういう話があります。

●この植物の標本は故 村田源先生(京大)が木津川の堤で発見されたカラグワで大きく新聞で報道されました。
それを光田重幸先生が普賢寺川で６月６日に見つけて提供いただきました。カラグワは江戸時代にすべて伐採されたもので葉は薄く現在の養蚕業では葉が厚くなっているようです。広い地域を捜していただきましてありがとうございました。古事記の記述が証明される大切な資料です。

右が当時のカラグワ(発見村田源先生)
写真は光田重幸先生再確認